

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：32514

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13999

研究課題名(和文)ドイツにおける協同学習を志向した基礎学校用教科書開発に関する研究

研究課題名(英文) Research on Development of Textbooks oriented toward Cooperative Learning in German Primary School 'Grundschule'

研究代表者

中園 有希 (Nakazono, Yuki)

川村学園女子大学・文学部・准教授

研究者番号：30758347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ドイツにおいて1990年代以降発行されたドイツ語、算数、事実教授の代表的な基礎学校用教科書12シリーズを質的に分析し、下記の三点を明らかにした。1990年代以降のドイツの基礎学校の教科書において、協同学習が教科の差異なく導入されている。基礎学校の教科書の構成に対する教育スタンダードの影響力が2010年頃を境に急速に強まっている。基礎学校の教科書における学びのインクルーシブ性に対する意識も、2010年代以降急速に高まりつつあるが、個別支援への特化は学びの真正性を危機にさらす可能性もある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義と社会的意義は、次の三つである。教科書研究大国ドイツの1990年代から現在に至る基礎学校用教科書を教科横断的に分析し、協同学習の位置づけを明らかにした。基礎学校の教科書において教育スタンダードとインクルージョンがそれぞれ各教科にどのように影響を与えたのかを明らかにした。日本において今後協同的でインクルーシブな学びを志向する教科書を開発する際の参照軸になりうる。

研究成果の概要(英文)：Through the qualitative analysis of 12 representative textbook series for German, mathematics and 'Sachunterricht' of primary level in Germany published after 1990's, this research clarified following three points. 1. Cooperative learning is introduced into the textbooks after 1990's regardless of their subjects. 2. The influence of the national educational standards on the textbooks for primary school becomes stronger and stronger since 2010's. 3. Although the awareness of inclusive learning in the textbooks for primary school is raised after 2010's, tendency of individualization of learning in the textbooks could risk the authenticity of learning.

研究分野：教育学

キーワード：教科書 インクルージョン 教育スタンダード 協同学習

1. 研究開始当初の背景

現代ドイツは世界的に見ても教科書研究が盛んな国である。そのテーマは教科書の内容分析・イデオロギー批判や歴史的研究、教授学的研究まで多岐に亘り、その蓄積の豊かさが教科書自体のパラエティの豊富さにもつながっている。世界最大の教科書研究所、ゲオルク・エッカート国際教科書研究所の存在も大きく、同研究所が 2012 年から、革新的な教科書に対し毎年授与している「今年の教科書」賞も、特徴ある教科書の開発を一層促している。

現代ドイツのこの教科書研究と教科書開発の多様性と豊かさの起源は、1960 年代の東西両ドイツに遡ることができる。この時期、両ドイツでは、理由こそ異なっていたが、教科書の教授学的研究がほぼ同時期に始まり、世界的に類を見ない膨大な量の研究が蓄積された。そこで両国がともに目指したのは、興味深いことに、叙述の集成としての教科書形式を脱し、教授学的に精選された問いや課題、資料を中心に据えることによって、子どもの自立し創造的で探究的な学びを支える「ワークブック (Arbeitsbuch)」としての教科書を開発することだった。

そこで前提とされた学びの形は、ペアやグループでの学習であり、教科書はその際に子どものモノや事実、世界との出会いを支え、教師の教授活動を支援する役割を引き受ける媒介者だった。両国の研究者が 80 年代末にかけて精力的に開発に取り組んだ「ワークブック」としての教科書は、現在のドイツにおいて最もスタンダードな教科書形式になっている。1 つのトピックを見開き 2 ページで扱うことや、子どもに思考や作業を促す課題の掲載と、それらの課題に取り組む際の手法をステップに分けて提示した「メソッド (Methode)」の掲載は、西ドイツの伝統を引くワークブックとしての教科書の代表例である。また、東ドイツの国定教科書を出版していた「人民と知識」出版は、東西ドイツ統一後、西ドイツの教科書出版大手コルネルセンと経営統合し、現在も殆ど全ての教科の教科書を出版している。重複や無駄を極力排し、精選された問いや課題で子どもの創造的な学びを支えようとする同出版の教科書には、東西ドイツ統一後 20 年以上経った今でも根強い支持があり、東ドイツに属していた地域を中心に使用が続いている。

これらのドイツの教科書は、現在大きな課題に直面している。2001 年のいわゆる「PISA ショック」は、初等教育修了段階で生徒の進路を成績別に振り分けるドイツの学校システムが持つ歪みを明らかにし、教育政策や教育制度、カリキュラムに大幅な改革を迫った。とりわけカリキュラム開発や教育評価の領域では、アウトプットが重視されるようになり、各教科、教育段階で求められるコンピテンシーの獲得につながる学習課題の精選が要請されるようになった。

教科書に関して言うならば、一方で重要な概念として登場したのが「学び手の個人的なニーズに教授目標や教授内容、教授援助、教授方法を合わせることを意味する「分化 (Differenzierung)」である。「分化」は 80 年代から教科書の重要な教授学的機能の一つに挙げられていたが、PISA 調査を通し子どもの多様な言語的、文化的背景が注目される中で、改めて着目されている。

他方で教科書に要請されたのは、単なる形式としてのグループ学習ではなく、そこで生起する学びの質を問題にする「協同学習 (kooperatives Lernen)」の支援である。ドイツで協同学習の理論は 90 年代にカナダのそれを受容する形で導入されたが、それが急速に普及したのは「PISA ショック」以降のことである。教科書は、個人の学びを確実に支えつつ、他者との協同的で豊かな学びを実現する大きな課題を背負うことになった。

2. 研究の目的

本研究は、教科書研究大国であるドイツの基礎学校において、1990 年代以降使用されているドイツ語、算数、事実教授の教科書と教師用ハンドブックを分析し、教科書における個人の学びの保障と協同学習の追求の展開過程を明らかにするものである。基礎学校はドイツにおいて、義務教育段階では唯一多様な背景を持つ子どもが学び合う場であり、個と協同の学びに対し教科書が果たす役割は、より重く困難である。東西ドイツ統一と「PISA ショック」が教科書に与えた影響や、近年のデジタル教科書の導入により追求される新たな可能性に着目しつつ分析を行うことによって、教科書が協同学習において持つ可能性や課題を明らかにし、今後の日本において協同的で創造的な学びを支える教科書を研究・開発する際の重要な参照事例とすることが可能である。

3. 研究の方法

1990 年代以降発行されたドイツ語、算数、事実教授の代表的な基礎学校用教科書と教師用ハンドブック及び関連する学術文献や行政文書を収集した。収集は最新の版の教科書や教師用ハンドブックについては購入し、過去の版についてはベルリン自由大学教育学図書館、ドイツ国立図書館ライプツィヒ分館等において複写により収集した。そこにおいて個の学びの保障と協同学習の追求がどのように展開されているのかを質的に分析した。収集し、分析した教科書は下記の通りであり、それぞれの教科について出版時期や特徴の異なる 4 シリーズを選定して収集した。

教科	教科書名	初版年と出版社	特徴
ドイツ語	Zebra	2007年～クレット	2014年今年の教科書賞を受賞。子どもの生活世界への近さと協同性、自主性を重視する授業の支援について高く評価された。
	Niko	2014年～クレット	レベル別分化、個人化とインクルーシブ、コンピテンシー志向、組織化をキーワードとする教科書
	der, die das	2011年～コルネルセン	算数教科書『eins, zwei, drei』の姉妹編。移民の背景を持つなど「高度な言語的支援が必要な小学生のための教科書」
	Lesefreunde Sprachfreunde	2001年～人民と知識	人民と知識出版が発行し、旧東ドイツの伝統を引いている。旧東ドイツ諸州で用いられる。2冊合わせてドイツ語の授業で用いられる。
算数	Das Zahlenbuch	1994年～クレット	プロジェクト「mathe2000」で作成された教科書。活動的で社会的な学びを志向している。
	eins, zwei, drei	2012年～コルネルセン	ドイツ語教科書『der, die, das』の姉妹編。副題は「言語的支援が必要な子どものための教科書」
	Matherad	2011年～vpm	高度に個人化された学びを支援するための教科書。2014年「今年の教科書」賞にノミネートされた。
	Mathefreunde	2010年～人民と知識	人民と知識出版が発行し、旧東ドイツの伝統を引いている。旧東ドイツ諸州で用いられる。
事実教授	Pusteblyume	1993年～シュレーデル	ドイツ国内で広く用いられている事実教授の教科書
	Zebra	2009年～クレット	国語教科書『Zebra』の姉妹編
	Niko	2017年～クレット	国語教科書『Niko』の姉妹編
	Umweltfreunde	2001年～人民と知識	人民と知識出版が発行し、旧東ドイツの伝統を引いている。旧東ドイツ諸州で用いられる。

4. 研究成果

本研究を通して明らかになったのは、以下の三点である。

第一点目は、1990年代以降のドイツの基礎学校の教科書において、協同学習が教科の差異なく導入されているということである。ペアワークを中心としつつ、多くの基礎学校の教科書が学びの協同性を意識した課題設定を行っている。例えば、1994年から版を重ねる基礎学校用の算数教科書『Das Zahlenbuch』は、コミュニケーションな算数授業を強く志向し、発見的、活動的な算数学習をコンセプトに掲げており、「今年の教科書」賞を2017年に受賞するなど高い評価を受けている教科書だが、第1学年用における協同学習の要素が2015年版では3%だったのに対し、2017年版では12%と明確に増加している。

第二点目は、基礎学校の教科書の構成に対する教育スタンダード（Bildungsstandards）の影響力が2010年頃を境に急速に強まっているということである。教育スタンダードは、「PISAショック」を受けカリキュラムのアウトプットの質保障を目的に連邦レベルで設定されたもので、初等教育段階は他の教育段階に先駆け、2004年にドイツ語と算数で設けられた。しかしながら、2000年代は教師用ハンドブックの序文等で言及されることはあれ、教科書の内容に明示的に教育スタンダードが示唆されることはない。

これが変化したのは2010年頃であり、本研究で調査した基礎学校の教科書の中では、人民と知識出版の『Mathefreunde』が2010年の版から教科書の学習課題に3段階の習熟度レベルを示すマークを付け始めている。2014年に新しく出版された『Niko』は初版から3段階の習熟度レベルを導入する構成をとっている。2010年代までに複数の版を重ねてきていた『Zebra』と『Zahlenbuch』はそれぞれ2018年、17年の版からやはりこのモデルを学習課題に付与するサインとして採用している。このことが意味するのは、一方では教科書が子どもたち一人ひとりの多様な背景や前提を意識し個の学びの支援を行うことを目的としているが、他方では、その成績が中等教育以降の進路に影響する初等教育段階において暗黙の選抜装置として機能し始めたということである。

さらに各教科の教科書における教育スタンダードについて言うならば、事実教授は特異な受容を行っている。事実教授には連邦レベルの教育スタンダードは存在せず、事実教授学会が発表した2002年のコンピテンシー枠組が事実上の教育スタンダードとして機能していると理解されている。その一方で、事実教授の教科書においては、2015年頃からドイツ語の教育スタンダードに基づく3段階の習熟度モデルが採用される傾向が強まっている。これは、ドイツ語と事実教

授の教科書が同じシリーズとして内容や教授法に相互に関連性を持ちつつ出版され始めたことによるものである。『Zebra』と『Niko』はその代表例である。元々事実教授には学会版スタンダードにおいても習熟度という考え方は存在していなかったが、教科横断的な教科書開発のもとで、連邦レベルの教育スタンダードの影響は徐々に強まりつつある。

第三点目は、基礎学校の教科書における学びのインクルーシブ性に対する意識も、2010年代以降急速に高まりつつあるということである。教育スタンダードと必ずしも相容れない関係にあるインクルーシブ教育の追求は、2007年の障がい者の権利に関する条約の批准の後、政策としても推進され、2011年には各州文部大臣常設会議（KMK）が勧告「学校における障がいを持った児童生徒のインクルーシブ教育」を発出している。

前述の『Das Zahlenbuch』第1学年では、車いすの子どものイラストレーションの登場が2015年版の2回に対し、2017年版では10回となり、大幅に増加している。さらに同教科書は、2017年版より、学習障がいを含む算数の学びに困難を抱える子どもたちを想定した教師用ハンドブック『支援のコメント 学習編』と、移民、難民家庭出身などドイツ語に困難を抱える子どもを想定した教師用ハンドブック『支援のコメント 言語編』を発行し、多様な子どもたちの協同的な算数の学びを創出する踏み込んだ支援を始めている。

その一方で、目立つのは、「インクルージョン」という言葉を題名に冠した無数の副教材のパッケージの開発である。その多くは、成績不振で個別の学習支援が必要だとされる子どもを対象としたドリル教材として作られていることが多い。ドイツ語教科書『Niko』は、同一の文学テキストを3通りの難易度で書き直しているが、「普通」、「簡単」のレベルに相当するテキストは、オリジナルテキストの簡略化であり、文学的表現も省略されている。学習課題もどちらかというところを重視しており、探究的要素は薄い。このことが示しているのは、教科書が個の支援に特化すれば特化するほど、学びの真正性が危機にさらされるということであり、教育スタンダードが影響力を強める一方で、教科書を通じたインクルージョンはまだ脆く、支援を必要とする子どもたちを結果的に排除する装置に容易に変化するという点である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中園 有希
2. 発表標題 変わりゆくドイツの小学校教科書 協同の学びを巡って
3. 学会等名 川村学園女子大学公開講座
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中園 有希
2. 発表標題 ドイツの初等学校教科書における「インクルーシブ」な作業課題の検討
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuki Nakazono
2. 発表標題 Contradiction between Inclusion and Differentiation. Textbooks for Primary Education in Germany.
3. 学会等名 International Association for Research on Textbooks and Educational Media (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 公益財団法人教科書研究センター	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人教科書研究センター	5. 総ページ数 -
3. 書名 海外教科書制度調査報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----